

B 型肝炎ワクチン(定期接種以外)についての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) 病気の説明

○B 型肝炎

原因は B 型肝炎ウイルスで、血液を介して感染します。感染から発症までの期間は 30 日から 6 ヶ月です。通常は急性肝炎の経過を取り、1~2 ヶ月の経過で治癒します。時に劇症化して死亡することもあり、油断できません。

お産の時に母から子に感染することもあります。免疫の弱い新生児や乳児に感染するとウイルスを排除できず、持続感染の状態に陥ります。持続感染患者(キャリア)は無症状ですが、ウイルスが消えず、長期的には慢性肝炎や肝癌の発生率が高くなります。

その他、医療機関での針刺し事故で感染することもあります。

2) ワクチンの効果

3 回の接種で 85~90%の方に免疫がつきます。

3) ワクチンの特徴

人工的に合成したウイルス蛋白を精製した不活化ワクチンです。

4) 接種方法

・0.5ml(10 歳未満では 0.25ml)を 27 日以上の間隔をあけて 2 回接種、さらに 1 回目接種後 139 日以上(20 週後の同じ曜日以降)あけて 1 回、計 3 回皮下注射します。

(注: 定期接種対象者は定期接種で、母子感染防止目的の場合は特別事業として接種されます)

5) 副反応

- ・副反応の少ないワクチンです。これまでほとんど副反応の報告はありません。
- ・ヘプタボックスは容器にラテックスが含まれており、ラテックスアレルギー患者には接種できません。

6) 接種後の注意

ワクチン接種後、30 分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。